



学校だより

平成 26 (2014) 年 9 月 20 日

カンタベリー日本語補習校

校長 古川 明

《教育講演会（杉浦浩先生）に、多数のご参加ありがとうございます！》

9月6日(土)は、神戸大学附属小学校の杉浦浩先生をお迎えして、午前中は附属幼稚園保護者皆様を中心に座談会を開催しました。附属小学校では、文科省の委託を受けて幼小連携のプロジェクトチームを編成して、小1プログラム(小学校入学時の課題)に対処するため、教育課程の改善・研究を行っています。

杉浦先生は、海外の幼稚園へ通う子どもたちは、無自覚的学習である遊びを通して同世代の子どもと話す機会を多くしてあげることが大切であり、さらに、日本の文化を豊かに体験・経験する中で、日本語の言語環境を整えることが大切ですと述べていらっしゃいます。そして、子どもの話に愛情を持って丁寧に聞き、子どもの自尊感情を高め勇気づけてあげることが、同世代の仲間みんな自分の仲間と思うようになります。そのことが、子どもの自立と協調の心を育てることになりますと述べられました。

午後からは、ホールで演題「今後の海外子女教育について～多文化共生教育～」について、パワーポイントを用いてお話をされました。講演会の主な内容は、以下の通りです。

- (1)世界の補習授業校に在籍する児童・生徒数が年々増加している。
- (2)日本人の海外留学生数は減少傾向。留学先も欧米からアジアへとシフトチェンジをしている。
- (3)日本国内における外国人・留学生は、中国、韓国、ベトナム、台湾、ネパールの順です。
- (4)そのため、日本の海外子女教育は欧米からアジアへと向かっており、今後もその方向性は変わらない。
- (5)阪神淡路大震災による避難所生活では、日本人、韓国・朝鮮人、ペルー人、ベトナム人、ブラジル人等との交流が深まり、多文化共生の様子が報じられています。
- (6)補習授業校に通う子どもたちは、毎日が異文化交流です。補習校は、日本の学校と同じ学習指導要領に則って学習を進めています。日本の学校の目指すところは、道徳教育を柱とした人格の完成です。
- (7)学習指導要領解説道徳編を基に、7つに区切って説明された。補習授業校においても、全ての指導時間を使って道徳教育を行っています。
- (8)世界の補習授業校の課題を三点に絞って提示
 - ①永住や長期滞在の児童・生徒は、現地校での成績が良い反面、補習授業校では日本語で自分の思いや意見を伝えるに、日本人でありながら日本語の運用に自信を失っています。
 - ②数年で帰国する児童・生徒の多くは、現地校の英語や学校文化が分からず不適応を起こしやすいです。帰国後は、自分の過去を押し殺して同化せざるを得ないケースがあります。
 - ③永住者及び長期・短期駐在者共通の課題は、補習授業校の宿題と漢字の取り組みです。
- (9)漢字学習で大切なことは全体像を示すことです。漢字下敷き(漢字博士・漢字名人)は、新出漢字・新出読み替え漢字を各学年の教科書に出てくる順に、熟語単位で配列しました。漢字下敷きで、新出漢字・新出読み替え漢字の全てを学習できます。文脈の中で漢字(語彙)を理解し、文脈にそった漢字を使えるよう努力して欲しいです。

「千六の漢字も一字から」は、小学校1年生から6年生までの漢字プリントを系統立てて150枚作成しました。毎日1枚行っただけで、1年間で2回実施できます。漢字は世界に誇る文化遺産です。

カンタベリー日本語補習校の校内研究 海外子女教育振興財団 2014年度 教育活動等援助事業として決定！

校内研究のテーマ：

「自ら学び、学び合う子どもをめざして～伝え合う力を育てる国語科の授業～」

研究対象：公開授業、研究協議会、教育講演会

成果物：研究紀要



お知らせ① 補習校の教育活動公開

補習校は子どものより良い成長と教育活動に役立てるため、学校と家庭との連携を推進しております。その一環として、補習校の教育活動を常時公開しております。皆様のご都合のよい時に、お知り合いの方とお誘い合わせておいでください。日本の学校文化を体験しながら、日本語を読んだり、書いたり、さらには日本語で考えたことを、友達の前で発表する子どもたちをご覧ください。参観されて、何かお気づきの点がありましたらお知らせください。

なお、参観をご希望される場合は、事前に事務局へお知らせください。静かな雰囲気のもと、集中して学習活動を行っていますので、授業中での教室の出入りはご遠慮ください。

◎「千六の漢字も一字から」を利用されたい方は、補習校の URL (<http://www.cjssnz.org/千六の漢字/>) からプリントできます。杉浦先生は、熱い思いで漢字プリントを作成されました。多くの方にご活用いただき、日本の文化を守り育てたいものです。



3校時は、6年1組の国語の研究授業『『平和』について考える～平和のとりでを築く～』を参観されました。本校では、1学期から教員12名の各学級で国語の研究授業とその研究協議に取り組んできました。研究協議では白熱の議論もあり、教員の授業改善にける熱意がよく伝わるものでした。それを受けての当日の研究授業は、講師の杉浦先生並びにオークランド日本語補習学校の校長先生や中森先生、そして全職員へ公開したものであります。

夕方の研究協議では、12回の研究協議と同じように、研究テーマ「自ら学び、学び合う子どもをめざして～伝え合う力を育てる国語科の授業～」に基づきながら、研究授業を参観して気づいた点を付箋に書き込んでいきます。当日の研究協議は、二つのグループに別れ、①研究テーマに迫る授業であったか②補習校の課題について工夫・改善が見られたかの二点について話し合いをもちました。事前に、グループで話し合った内容を発表する係と司会を決めて行いました。教員が二つのグループに分かれての話し合いこそが、研究テーマに関わる「学び合い」の姿でもありました。杉浦先生からは、研究協議会での教員相互の話し合いの持ち方について、高い評価をいただきました。

昨年度の3学期より学校組織として、各学年で取り組んできた「目指す児童・生徒像」、そして「それに迫る手立て」について、ここでしっかり検証をしたいと思えます。さらに、12月13日(1校時)の公開授業では、研究授業の成果を保護者皆様にご覧いただきたいと思えます。

最後になりますが、杉浦先生の講演会には、日本人会会員の皆様並びに保護者皆様、ご多用の中、ご参加いただき誠にありがとうございました。今後も、補習校教育活動の充実に向けて、努力してまいります。今後ともよろしくお祈りします。

お知らせ② 緊急時の対応について

大きい地震や自然災害等の緊急時には、担任が保護者に児童・生徒の引き取りを直接電話で要請します。保護者が子どもを直接引き取れない場合に備えて、あらかじめ保護者は代理の方をお願いをしておいてもらいます。そして、代理人の身元については、保護者から引き取り場所にいる代理人と担任の二人に、電話で代理人に間違いのないことを確認してもらいます。補習校が外部との連絡がとれない等、被害が甚大な場合、子どもたちをアイラム校の施設や敷地に緊急避難として待機する場合があります。

なお、被害の大きさによっては、補習校より児童・生徒、保護者の安否確認をします。具体的には、①名前、学年、クラス、所在地、連絡先、状況 ②家屋等の被害状況確認 ③不在時の返信(○日の△時まで) ④不通時の再確認です。

災害の起きる時間、状況に応じて、あわてず、迅速、的確に対応できるように、日頃から家族内で話し合いをして、自然災害に備えておきましょう。



音読発表会 9月27日(土) アイラムスクール・ホール

第1部 (小5～中3)		第2部 (小1～小4)	
14:00～14:10	開会式 学校長のあいさつ 校歌斉唱 音読指導のねらい	15:20～15:30	開会式 学校長のあいさつ 校歌斉唱 音読指導のねらい
14:10～14:50	音読発表・リコーダー発表 小5「わたしはひろがる」 小6「平和のとりでを築く」 リコーダー「ラバース・コンチェルト」 中1「野原はうたう」 中2「マジック・アワー」 中3「高瀬舟」	15:30～16:25	音読発表 1年1組「あいうえおのうた」 2年1組「たこ」(ふたりはいっしょ) 3年1組「いろはにほへと」 1年2組「おむすびころりん」 2年2組「スイミー」 3年2組「海をかつとばせ」 4年 「一つの花」
14:50～14:55	講評(学校長) 閉会式	16:25～16:30	講評(学校長) 閉会式